

基調講演 Q & A (小松教授)

Q

共用して地域の拠点にしていくのは、学校以外の公共施設でもいいのでしょうか？学校が一番向いている理由などがあるのでしょうか？

A

一般に日本では学区と自治区の範囲が概ね一致するので、利用者の設定や想定が容易なこと、地域住民が場所をよく知っていて愛着もあること等が理由の一つとして挙げられます。また、公共施設の中で敷地、建物とも比較的規模が大きく、敷地は平坦なので（地方では必須となる）駐車場が確保しやすいこと、また子どもが減り、空き教室や廃校舎の処遇が課題になっていることも挙げられます。改築の場合も複合化が進むことを考えると、学校は社会的にも空間的にも地域の拠点にすることには一定の合理性があると考えられます。

学校以外では、交通の便やよく、災害危険度が低いなど立地条件が良く、必要となる延床面積と耐震性を有するものの、用途廃止をした公共施設も候補になるでしょう。支所なども候補になり得ると思いますし、用途廃止した民間建物（例：スーパー）にも可能性はあります。ただ、規模は小さくならざるを得ないので、ネットワークづくりが肝要になるでしょう。

Q

防犯の観点から課題はありませんか？ 保護者の理解は得られるものなのでしょうか。

A

ハード面（建築面）の対応としては、どこまでを開放するかを段階的に設定することや、行き止まりをつくらず、屋外に逃げやすいようにすることで、より安全な校舎とすることは可能です。一方、学校が地域に開かれて普段から地域住民が出入りし、滞在していると、大人の目が常に学校を見守ることができます。このソフト面での対応とハード面の対応を組み合わせることによって、絶対の保証はできませんが、より安全な学校にすることができます。逆に、安全を重視しすぎると、監獄のような空間や管理になりますが、そのような学校をみなさん望まないでしょう。空間的にも社会的にも開くことが、安全で共創的な学校づくりにつながると考えています。

Q

学校に地域施設を複合化することで、子どもたちの成長、学力などに、どのような良い影響が出ていますか？ 逆に悪い影響はないのですか？

A

残念ながら学力への効果までは確認できていません。ただ、学校の先生以外の大人との直接的、間接的な交流があること、つまり同世代だけでなく異世代との交流は、コミュニケーション能力の涵養が求められる子どもたちにとって、とても大事な経験や機会になると、学校関係者も使用開始後の経験をふまえて考えています。

Q

新城で、事例紹介の松阪市のような複合学校をつくるためには、何から取り組みばよいですか？ 市民にできることは何ですか？

A

この学校をどうしていったら良いか、とにかく忌憚のない意見を出し合うことから始める。その際、様々な意見が出ると思うが、批判や、意見をぶつけ合うことをせずに意見を出すことからまずやってみましょう。